

# 第1号議案 2016年度事業・活動報告に関する件

## 1. 組織の運営

- ・ 会員は、運営会員 26 名、一般会員 113 名となっています。前年度に比較して、全体で 12 名減少しました。
- ・ 定例理事会を年 6 回開催しました。  
6/5 役員選任、7/14 年間事業計画、9/15 中間点検、12/22 今年度まとめ、3/16 次年度計画案  
5/18 総会議案
- ・ 事務局は 18 名（四街道市みんなで地域づくりセンター6 名、おおなみこなみボランティアスタッフ 6 名を含む）の体制で運営しました。
- ・ 2014 年度、2015 年度の実績のもとに 10 月に認定 NPO 法人申請を千葉市に提出、2017 年 2 月に認定されました。

## 2. 相談事業・NPOの支援事業

### 相談事業

- ・ 事務所で日常的に相談を受け付け、「会計」「事業報告書の作成」「活動団体の紹介」「法人の運営」などの相談に対応しました。事務所での相談は 24 件、四街道市みんなで地域づくりセンターでの相談は 76 件、とみさと市民活動サポートセンターでの相談は 63 件、年間で 163 件の相談件数となっています。

### 講座、講師派遣事業

- ・ 社会的課題、NPO の状況に沿った内容で 3 講座を企画、開催し、参加人数は合計 47 名でした。  
〔 事業報告書作成のための講座、(20 名)、NPO 法人のための会計講座 (19 名)、団体情報発信 & ブログ使いこなし講座 (8 名) 〕
- ・ NPO と行政との協働や団体のマネジメント、市民の地域づくり活動への参加等についての講座の企画、講師派遣を行いました。

## 3. 地域づくりのコーディネート事業

### 四街道市みんなで地域づくりセンターの運営（地域づくりコーディネーター業務委託事業）

- 四街道市の平成 27 年度～29 年度の委託事業として、みんなで地域づくりセンターの運営を担い、センター事業の企画・実施、スタッフの研修を通して、センター機能の充実をすすめ、「みんなで地域づくり（＝市民協働）」を進めました。（オープン日 253 日、来所者数 8,001 人※大きなテーブル、ユニバーサル農業フェスタ等を含む、新着情報 487 件、相談件数 76 件）
- ・ 市の高齢化率が 27% を超える中で「拡大自治会情報交換会」を 2 回開き、自治会役員、民生委員などが意見交換を行い、川北秀人さん（IIHOE 代表）の講義から、四街道市では 2025 年には、4 人で 1 人の後期高齢者を支えなければならないという状況と、今後の取組みの必要性について共有しました。また、四街道市地域支えあい推進会議に参画し、高齢者支援課や地域包括支援センター、関係団体等と連携して課題に取り組むことになりました。
  - ・ 子ども支援団体交流会「子どもを取り巻く状況と支援」を 2 回開催し、地域の活動団体が情報交換を行いました。子どもたちが豊かに育つ環境づくりの活動をサポートし、「こども記者クラブ」が全国広報コンクール広報企画部門入選、「チームよつてら」がふるさとづくり大賞総務大臣賞などを受賞しました。また、吉岡地区でのこどものまち事業をサポートしました。
  - ・ 四街道の魅力発信や地域活性化を目指して、「四街道マップ活用交流会」の散策ツアー、「よつグルメ研究会」の情報大学との連携や商品開発などをサポートしました。
  - ・ 「夏休み小学生ボランティア体験」「地域づくり体験プログラム コラボラ」を開催し、市民の地域づくりへの理解や参加を進めました。「福祉施設紹介・販売フェア 大きなテーブル」を開き、

秋には四街道市で4回目の「ちばユニバーサル農業フェスタ」(参加団体60、来場者3200人)の開催に協力し、市内外に「ユニバーサル農業」を発信しました。

- ・地域づくりに関する講座として、「コラボ塾」(7回)を開いて「コラボ四街道(みんなで地域づくり事業提案制度)」への提案につなげ、「組織マネジメント勉強会」(10回)「特定非営利活動促進法改正勉強会」等を開き、団体の運営力アップを図りました。
- ・ホームページやブログ、メールマガジン、Facebook などにより、センター事業や市民活動団体情報、助成金情報などを発信し、広報誌『みんなで』は、編集スタッフの協力を得てリニューアルしました。広報誌の紙面の充実と、ホームページのタイムリーな掲載が課題です。

### 富里市まちづくりコーディネーター育成業務

「富里市協働のまちづくり条例」と「富里市まちづくり推進計画」に則り、まちづくりコーディネーターの役割、とみさと市民活動サポートセンターの役割を理解し、まちづくりコーディネーターとしてとみさと市民活動サポートセンターの7つの機能を発揮できるよう日々の業務をとおして指導を行いました。また、市市民活動推進課とともに毎月2回のコーディネーター会議を開催し、講座、イベントの企画、ニューズレター紙面企画・編集、地域づくり団体からの相談対応等について情報共有、意見交換、議論してきました。コーディネーター会議は24回開催(72時間)、とみさと市民活動サポートセンター業務48日(390時間)、相談は63件、来所者数は5,429人の実績です。

### 多世代交流拠点「おおなみこなみ」運営事業

開設から2年半が経過、公共施設のほとんどが、年代や目的を差別化して運営されている中で、「多世代交流」に視点を置いた事業を継続してきました。

- ・折り紙講座、編み物講座、アイチ体操等の講座をボランティア講師の協力を得て継続開催し、健康・生きがいを進めました。
- ・千葉工業大学鎌田研究室の協力を得て、地域の小学生を対象に「千葉工大生とじっくり学んで遊ぼう!」を夏休みと冬休みに開催、小学生と大学生の交流の機会を作るとともに、小学生の長期休みの充実をはかりました。
- ・「0歳からの英会話」「ヨガ講座」「おやかカフェ@けみがわ」等の講座開催スペースを提供することでママ起業家を支援しました。
- ・生活クラブ虹の街千葉ブロックの協力を得て、ライフプラン講座や食育講座を連続開催。子育て中のママたちや高齢者、子どもたちの暮らし支援とネットワークづくりを進めました。
- ・福祉事業所の物品やNPO法人JFSAのリサイクル衣料品の販売を行い、それぞれの団体への活動の理解と「おおなみこなみ」の運営費の補てんを行いました。
- ・「福祉関連事業者、団体の情報交換会」の開催や検見川商工振興会や町会等が主催する「やあびな」への参加を通して地域のネットワークづくりをはかりました。
- ・千葉市花見川区活性化補助金として960,000円の家賃補助を得て運営しました。

### 福祉作業所ものづくり応援プロジェクト

- ・「福祉事業所ものづくりをテーマにしたゆるやかなネットワークづくり」をめざし、「父の樹会・3事業所見学ツアー」7/15を開き、社会福祉人父の樹会 おおぞら園管理者 小柴友幸さんから、自分たちが自信を持って出せるものでなければならないという「販路拡大のヒミツ」を伺いました。(参加者22人)
- ・福祉施設の販路拡大を目指す、地域創造ネットワークちばの「カタログ選定プロジェクト」に賛同し、「生活クラブ・スピリッツ『Meguru(めぐる)』」カタログ掲載に協力し、福祉事業所の製品を紹介しました。

## ふるさとふくしま交流・相談支援事業

東日本大震災により東北3県から避難し、千葉県で暮らす被災者を支援しました。

- ・ 千葉県内の生活情報や支援情報を掲載した被災者向け情報紙「縁 joy」を作成、被災元自治体の協力を得て、県内に避難している被災者世帯に送付しました。(毎月 2500 部発行)
- ・ 被災者支援の活動を行っている団体、専門家(臨床心理士、保健師等)、福島県職員、千葉県職員の参加を得て、被災者支援情報交換会を 6/22、9/28、1/26 に開催しました。  
1/26 には NPO 法人えひめ 311 の澤上事務局長より講演いただき、実際の電話相談の内容から、被災当事者の抱えている問題や今後必要とされる支援の在り方等について検討しました。
- ・ 県内の支援団体等がメンバーとする実行委員会を組織し、実行委員会を 6 回開催してイベント「縁 joy・東北 2016」を 12/17 に千葉市きぼーるで開催しました。(一般参加 360 名、スタッフ関係者 150 名)

## 福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業(福島県県外避難者相談センター開設)

- ・ 福島県からの県外避難者対象に説明会・交流会を 2 回開催しました。①パレット柏にて開催。避難当事者 17 名、福島県担当課職員他 11 名、オブザーバーとして復興庁から 5 名参加。②11/19 千葉市生涯学習センターにて開催。避難当事者 6 名参加、福島県担当課職員他 8 名参加。
- ・ 提案事業①避難者で就労されている方を対象に、相談窓口を土曜日の午前中も開設した。
- ・ 提案事業②毎年開催の復興応援イベント「縁 joy・東北 2016」内で出張相談ブースを設けた。
- ・ 提案事業③相談センター設置の周知を図るため、拠点にて交流会開催。(浪江まち物語隊「無念」上映)

## 浪江町復興支援員支援事業

- ・ 東日本大震災から 6 年が過ぎた今も、千葉県内では約 600 名の町民が避難生活を送っています。多くの生活の不安を抱えている浪江町民の暮らしを支えるために、浪江町千葉県駐在として復興支援員が 4 名配置され個別訪問や交流の場づくり等の活動を継続しています。社団法人東北圏地域づくりコンソーシアムおよび浪江町役場からの受託事業として、復興支援員の活動をサポートしました。

## 景観まちづくりフォーラム

- ・ 「景観まちづくり千葉協議会」を継続して開催するとともに、「歴史の中の里山とローカル鉄道」を 2/11 に、県、市原米沢の森を考える会との共催で開催。フィールド視察、里山散策の後、パネルディスカッションを実施しました。

## SAVE JAPAN プロジェクト

- ・ 損害保険ジャパン日本興亜株式会社協賛で日本 NPO センターと共催する希少生物保護活動事業を受託、亀成川流域里山散策 10/30、ニホンアカガエルを守ろう! 早春の里山散策 3/5、フデリンドウを守ろう! セイタカアワダチソウ引っこ抜き作戦 4/23 を印西市の「亀成川を愛する会」とともに企画実施しました。

## NPO 法人地域創造ネットワークちばの事務局業務

地域創造ネットワークちばとの委託契約に基づき、事務局業務を行いました。地域創造ネットワーク千葉理事会から委託費減額の依頼があり、この間業務が軽減していることもあり対応し、委託費を毎月 10,000 円に減額しました。

- ・ 第 11 回総会を 5/23 に、理事会は 8/2、10/25、1/24、4/25 に開催しました。
- ・ 農を通じて様々な人たちが出会い、交流し、働きあう「ユニバーサル農業」を広めることをテーマに 2 事業を実施しました。ちばユニバーサル農業フェスタ実行委員会を継続して運営、「第

- 6回ちばユニバーサル農業フェスタ」を12/4 四街道市文化センターで開催、来場者3,200人、出展は16市町から60団体と多くの方に「ユニバーサル農業」を発信することができました。
- ・フェスタ開催に先立ち、9/4に「出展説明会&交流会」を開催、46名が参加、県内で先進的なユニバーサル農業4事例の報告と情報交換を行いました。(NPO法人みのり福祉会、ファームさきくませ、NPO法人ワーカーズコープ神崎地域福祉事業所、株式会社OMOしろい)

#### ちばNPO協議会の事務局業務

- ・ちばNPO協議会の事務局を担い、幹事会を7/22、9/16、10/14、3/17、4/28に開催しました。
- ・6/30の総会後に講演会「地域包括ケアについてー先進自治体から学ぶ」を開催。鴨川市健康推進課と流山市介護支援課からの地域包括ケア推進に向けた施策、事業についての報告をもとに意見交換しました。
- ・介護予防・日常生活支援総合事業について、県内自治体の取り組み状況調査とセミナー等の開催を意図したが、協議会として取り組み内容を深めることは難しかった。

#### 4. 広報事業

- ・ニュースレター「つぎの一步くん」56号、57号、58号を毎回1,000部発行しました。56号では本年度の活動やその思いを伝えるとともに、「決算報告書は団体の顔です」と題して作成・提出時のポイントを紹介、57号では「無縁化に歯止めをかけたい」というテーマから、「居場所づくり」へとつながる3事業を紹介、58号では団体の情報発信をテーマに、ブログ講座のポイント紹介や「ちばNPO情報館」の紹介記事を掲載しました。NPOクラブの事業を背景にある思いとともにアピールしつつ、NPOの活動課題に沿った情報を掲載し、会員のほか、県内外の市民活動センター・中間支援団体等に配布しました。
- ・掲載する情報を会員から広く募集し、メールマガジン「通信・一步くん」を月2回配信しました。
- ・ホームページとあわせて、団体ブログ「NPOクラブの愉快的仲間たち」「縁joy東北～エンジョイ東北」、Facebookページ（連動するTwitterページ）を適時更新しました。また、地域課題に沿った団体の活動内容を紹介するサイト「CHIBAKARA」を運営、適時更新しました。

#### 5. 他団体との連携・協力事業

- ・公益財団法人ちばのWA地域づくり基金の活動を支援し、自治体からの謝金594,868円を運営に、生活クラブ虹の街で販売した認定NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所の「英語カレンダー953冊、「英語れんしゅうちょう」353冊を取組み、568,498円を「子どもの今と未来を支える基金」に寄付をした。また年度末に取組んだ「英語れんしゅうちょう」100冊「英語カレンダー」298冊分、150,468円は2017年度に寄付します。  
今年度は、組織基盤強化プログラム（伴走型支援）、コレクティブインパクトモデル事業「松戸市における貧困により孤立する子どものセーフティネットづくり」に協力した。
- ・生活クラブ千葉グループ協議会に参加し、グループ団体の活動紹介冊子を作成した。グループ結成10年記念と生活クラブ虹の街40周年記念式典に参加した。
- ・NPO法人ユニバーサル就労ネットワークちばが取組む「就労準備用途の交通費基金設立検討委員会」に参画し、基金概要を検討し「チャンス創造ファンド」が設立しました。
- ・千葉県NPO支援組織ネットワーク会議に参加し、県内20市町村が設置する市民活動支援センター、中間支援団体とともに研修会等を開催しました。
- ・国交省の社会資本整備審議会道路分科会関東地方小委員に就任、道路の計画段階評価について検討しました。

- ・ 千葉県県民活動推進懇談会副座長に就任、事業評価、事業の進捗、計画について意見を述べました。
- ・ 千葉県協働アドバイザーに就任し、千葉県が主催する協働まちづくり講座で講演をしました。
- ・ 浦安市、四街道市、千葉市、大網白里市、白井市、松戸市、印西市、習志野市の委員会等に市民・NPOの立場に関わり、協働事業の選考や市民活動支援補助金の審査、協働推進に関わる計画づくりに携わりました。
- ・ 中央ろうきん助成プログラム千葉県エリアの予備審査を担当しました。
- ・ 「東北圏地域づくりコンソーシアム」の依頼を受け、福島県浪江町から関東圏に避難している町民6名への取材協力を行いました。作成した原稿は、役場発行の「広報なみえ」に連続掲載されています。
- ・ 浦安市入船北小学校跡利用事業化検討委員会に就任し、アイデア公募、選定、事業計画審査等について4回開催された委員会で審議しました。小学校跡は、市民活動9団体等により、地域交流や活動の拠点として活用されます。

## **第2号議案 2016年度会計決算報告、監査報告に関する件**

- ・ 経常収益合計は予算 36,964,000 円（その他付随収入含む）に対して決算 38,225,527 円（その他付随収入含む）となり 1,261,527 円上回りました。事業費は 29,170,956 円、管理費 5,644,039 円、経費合計は 34,814,995 円となります。税引前当期正味財産増減額は 3,410,532 円となりました。法人税等 432,917 円を差し引くと当期正味財産増減額は 2,977,615 円になります。
- ・ 前年度繰越正味財産 10,904,024 円と合わせて、今年度期末正味財産は 13,881,639 円になります。